

## 今週（10月21日から10月25日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、大きな資金需給要因が無く、日銀当座預金残高は408～409兆円程度で推移した。無担保コールO/N物は、地銀・信託業態を中心に調達ニーズが強く、レートは日を追うごとに上昇する展開となった。特に前積み期でゼロ金利適用残高部分を多めに積み残していた地銀業態では、新積み期入り後もポジションに余裕があると考えられ、積極的に調達する動きが見られた。無担保コールO/N加重平均レートは、週初▲0.019%から始まり、週後半に掛けては▲0.01%台前半まで上昇した。積み期序盤からレートが強く上昇するなど、マイナス金利政策下ではあまり見られない展開となっている。ターム物はショートタームで▲0.02～▲0.01%の出合いが散見された。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、25日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額3,918億円（期落ち額2,168億円）の札割れとなった。

### ●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.080～▲0.045%のレンジでの取引となった。週を通して、業者の在庫ファンディングニーズに加えて投資家の資金調達が入り、売物はしっかりとした展開であった。

SCは個別銘柄では2Y402～405、5Y133～141、10Y336～356、20Y164～169、30Y59～64、40Y11～12など、カレント銘柄近辺や、チーペースト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、店頭での買いもあってか、堅調に推移する展開となった。相対的に利回りの高い3M物や1Y物については、▲0.230～▲0.210%近辺でまとまった出合いも見られた。一方、6M物は▲0.230%近辺での出合いと小甘く推移した。

23日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。オペ通告後に6M物が▲0.240～▲0.225%で出合う展開となる中、平均落札利回較差+0.043%、按分落札利回較差+0.042%と、在庫調整の売りからか、弱い結果となった。

25日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.215～▲0.195%で出合う展開となったものの、在庫が重いことが意識されてか、平均落札利回▲0.1943%、按分落札利回▲0.1712%とテールが流れる結果となった。結果発表後のセカンドリーマーケットでは、▲0.200～▲0.180%出合いと堅調に推移した。

### ●CP市場

今週のCP市場は、医薬品・石油業態でまとまった調達があったものの、発行は膨らまず、落ち着いたマーケットとなった。週間の金額ベースで見ると償還総額2,600億円程度に対して発行総額3,500億円程度と発行超となった。市場残高は19兆円台半ばで推移しており、概ね21兆円以上の残高を維持していた前四半期に比べるとCP発行は伸び悩んだ状態が続いている。やや低調な発行市場に加え、他の短期市場の金利が上昇している影響からか、投資家のキャッシュ潰しのニーズもあまり強くなく、発行レートは引き続き浅いマイナスから0%近辺での出合いが中心となっている。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/21 (月)	22,548.90	△ 0.140	108.49	△ 0.019	△ 0.062	4,087,100
10/22 (火)						
10/23 (水)	22,625.38	△ 0.142	108.38	△ 0.014	△ 0.070	4,092,400
10/24 (木)	22,750.60	△ 0.150	108.61	△ 0.013	△ 0.071	4,091,300
10/25 (金)	22,799.81	△ 0.150	108.70	△ 0.014	△ 0.060	4,086,700

## 来週（10月28日から11月1日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
10/28 (月)	9月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)		
10/29 (火)	10月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	2Y 20,000億円 11/1発行	米FOMC(1日目) 8月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 10月の米CB消費者信頼感指数
10/30 (水)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00～) 9月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)	交付税借入 10,500億円 11/8借入	米FOMC(2日目) 7-9月期の米GDP速報値
10/31 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望 9月の住宅着工統計(国土交通省 14:00) 9月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50)		9月の米個人所得・消費支出 10月のシカゴPM景況感指数 10月のユーロ圏消費者物価指数速報値 7-9月期のユーロ圏GDP1次速報
11/1 (金)	9月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 9月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30)	TB3M 43,000億円 11/5発行	10月の米雇用統計 9月の米建設支出 10月のISM 製造業景況指数

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/28 (月)	400	10,300	10,700	全店共通 国債補完	▲ 2,200 200	3,900	1,900	12,600	TB3M発行▲42700償還43000
10/29 (火)	0	2,000	2,000				0	2,000	
10/30 (水)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
10/31 (木)	▲ 1,000	▲ 600	▲ 1,600	CP買入		2,500	2,500	900	
11/1 (金)	▲ 1,000	▲ 27,000	▲ 28,000				0	▲ 28,000	2Y発行▲20000
週間合計	▲ 2,600	▲ 16,300	▲ 18,900	—	▲ 2,000	6,400	4,400	▲ 14,500	

10/28は日銀予想、10/29以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、金融政策決定会合があるものの、強めの調達意欲は継続すると考えられる。ただ、レート水準がほぼ限界まで上昇していることもあり、今週より若干低下する可能性も十分に考えられる。月末はビッドサイドの減少が予想される。レボ市場は、足元GCについては引き続き投資家の資金調達が継続していくと思われ、月末を挟む警戒感も薄く、▲0.080～▲0.040%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、11月1日に3M物の入札が実施予定となっている。国内外の金融政策決定会合が予定されており、3M物のレート上昇がどの水準で落ち着くか、それとも低下するのか、市場動向が注目される。CP市場は、月末発行にともない、9月以来の市場残高20兆円台への回復が予想される。28日にはCP等買入オペが予定されている。

主要なイベントとしては、国内では30～31日に金融政策決定会合、海外では29～30日にFOMC、30日に7-9月の米GDP速報値、31日に10月のユーロ圏CPI速報値、7-9月期のユーロ圏GDP1次速報、11月1日に10月の米雇用統計が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。